

令和 6 年度加古川市防災会議 会議録

1 開催日時及び場所

令和 6 年 7 月 25 日（木）午前 10 時 00 分から 10 時 42 分
加古川市防災センター 2 階 大会議室

2 出席者

（構成員）29 名中 27 名（内、代理出席者 7 名）

（事務局）8 名

・防災部次長 ・防災対策課：6 名 ・警防課：1 名

3 会議の経過の概要（議長：会長）

会長あいさつ

【議事】 加古川市地域防災計画・水防計画の修正について
⇒可決（全会一致）

【質問・意見】

（平田委員）

災害ケースマネジメントに関する取組推進に関する修正のうち、「被災者が容易に支援制度を知ることができる環境の整備に努めるものとする。」の部分について、同節内「2 自立支援」と内容が重複していないか。

（事務局）

自立支援については、自立に関して総合的な窓口を設置し広く被災者への広報を行うという内容であるのに対し、ケースマネジメントについては、被災者一人ひとりに寄り添った支援につながるような環境整備するという意味で異なるため、区別して記載している。

【議事】 加古川市の防災に関する取り組みについて

【質問・意見】

（古庄委員）

昨年度の総合防災訓練に参加した際に被害状況の確認の場面で気が付いたが、市内にある見守りカメラを防災に関しても活用できたら効果的であると思う。セキュリティ等の問題もあるだろうが、訓練でも活用できたらいいのではないか。

（事務局）

見守りカメラについて、多数の場所に設置されており機能も拡張されているため、使用にあたっての課題の確認から進めていきたい。

（岡田会長）

見守りカメラについては、犯罪件数の減少に寄与しているが、維持経費も発生しているため活用方法を模索していく必要がある。

（服部委員）

災害備蓄品は、使用期限があると思うが使用する際は、古いものから使用していくなど、できるだけ無駄にならないように注意してほしい。

避難所におけるトイレ問題は、能登半島地震でもよく取り上げられていたが、災害関連死を減らすためにも重要な問題である。避難所のトイレは阪神・淡路大震災から状況が変わっておらず、衛生面やプライバシー面が確保されていないようである。また、女性においては生理用品を誰でも入れる場所に捨てることに抵抗がある場合もあり、配慮が必要である。それ以外にも LGBTQ+の観点からも誰でも使えるトイレにすることが重要である。

(事務局)

市としても、能登半島地震を受けてトイレ関連の備蓄品の拡充を行う予定である。また、衛生用品としても、お風呂に入れない際に使用できるウェットティッシュやウェットタオルの備蓄を予定している。今後もいただいたご意見を基に整備していきたい。

4 会議の傍聴者

なし

以 上